

代 表 者

研 修 報 告 書

平成 30 年 7 月 6 日

各 会 派 代 表 者 殿

呉市議会議員

沖 田 範 彦

次のとおり研修に参加したので報告します。

1. 研修期日

平成 30 年 6 月 30 日 (土) ~ 7 月 1 日 (日)

2. 研修項目

兵庫県淡路市 竹林景観ネットワーク第 22 回研究集会

3. 参加議員

沖田範彦議員

・研修項目

竹林景観ネットワーク第22回研究集会

・場所

兵庫県立淡路景観園芸学校

・現地見学

淡路市 杉本林業加工場

洲本市 温泉宿泊施設「ゆうゆうファイブ」

・研修期日

平成30年6月30日(土)～7月1日(日)

・研修目的

竹林に取り組む研究者普及、利活用事業者の現状についての知識を広めるため

・研修内容

まず、13時30分から開始され、兵庫県立淡路景観学校の藤原道郎教授同学校では、年20人の学生を募集していることや、園内の植物等についての説明がされた。

次に京都大学でJAICAに所属する笹原千佳さんによるアフリカのケニア高地に住む先住民が、お茶の栽培の外自生している竹と防風垣や、炭化して燃料として使っている関わりが発表された。

次に京都大学院生の小林さんより、ハチクの開花と枯死についての報告がされ、兵庫県姫路市太市町で60年から120周期で見られる開花が確認され、今後全国的に見られるであろうとのことで、種の保存のための規則正しい自然界の現象に期待していると発表された。

次に香川大学院生の小林剛氏より、モウソウチクの葉の寿命が2年であることから、竹林の林内環境と他生物の深い関わりに着目している旨の研究発表がされた。

次に富山県農林水産総合技術センターの大宮徹氏より、森林総研関西支所より発刊された「タケ駆除マニュアル」を活用し、県内における関係団体や個人に配付し、竹林整備に対する意識調査を行い今後の取組方針を立てるのに利用していることが報告された。ちなみに富山県は2007年に森林環境税を導入したとのこと。

次に大阪高槻市の有限会社社長より、自身が行っている平炉式炭化換置を作動することにより発生する熱を元にバイブリー付温発電装置を開発し、循環型エネルギー活用方式を作り上げ、実用化、普及化に取り組んでいることが発表された。竹の量的活用が計られるものである。

最後に地元洲本市で竹林整備と竹チップ、竹粉の製造販売に取り組んでいる実情報告がされた。

年間180～200tの竹を加工していて原材料1万円/tで買い取り、加工後20～30円/kgで売却しているが、黒字化にはなっていないとのことであった。

翌日7月1日に杉木材業者の加工工場を見学し、加工したチップを購入している洲本市の「ゆうゆうファイブ」では、洲本市農政課の方より洲本市バイオマス農業都市構想について説明を受けた。

1. 竹林の整備、活用を促進するため、市の施設である「ゆうゆうファイブ」にバイオマスボイラー（竹チップ）を導入した費用は建屋も含め5,400万円。
2. 竹チップ年間に約190t使用し、重油代約48%削減
3. チップの購入費等を含めると、赤字かトントンになる
4. オーストリア製のボイラーを使用。クリンカのトラブルはない。

【呉市での展開の可能性】

呉市における里山の状況もこのまま手を入れないうままでいると、その分布範囲はますます拡大されていくことは必定。整備する人材の確保と伐採後の活用方法を探り、早期にその体制を確立することが求められる。

大量処理を行うには平炉方式による炭化と燃料として利用することが一番理にかなっていると思われる。

市の特別職制度を設け、「里山整備隊」を結成するべきである。